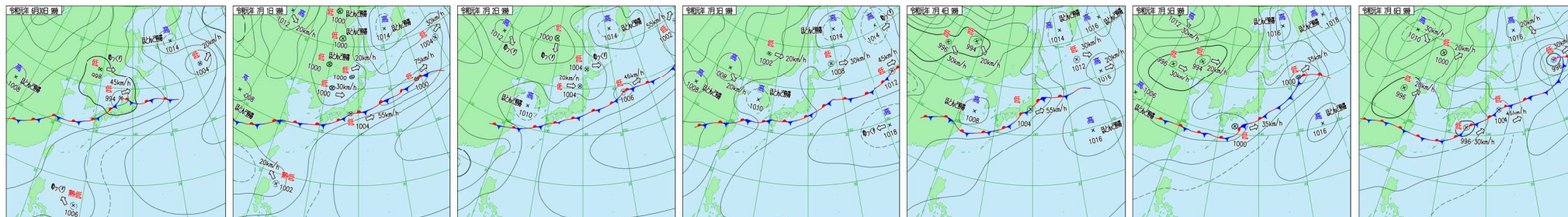


■天気図（6月30日～7月6日 ※毎日午前9時を掲載）



【今期間の天候について】

■気圧配置の特徴

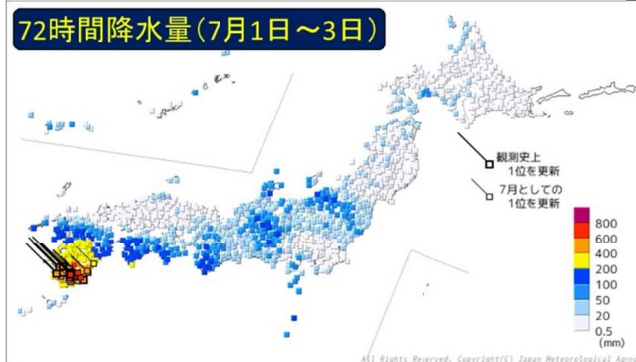
30日は梅雨前線が九州～東南北部に延びて、能登半島付近の前線上にある低気圧が東進した。1日から3日は、東シナ海～日本の東海上に梅雨前線が延び、九州南部に梅雨前線が停滞。鹿児島県、宮崎県、熊本県に大雨をもたらした。4日から5日は、西日本にかかる梅雨前線は次第に南下し、奄美大島～伊豆諸島にかかった。前線上を低気圧が東進し、関東の東へ進んだ。6日は前線上の低気圧がやや発達しながら日本の南を東進した。

■降水

30日から3日は九州南部で雨が降り続き、鹿児島県や熊本県、宮崎県を中心に記録的な大雨に見舞われた。九州南部の多くの地点で、1時間に50mm以上の非常に激しい雨を観測。宮崎県えびのは降り始めからの総降水量が1081.5mmに達した。九州の他の多くの観測地点でも500mm以上と、記録的な雨量となった。4日は三重県や愛知県など東海で非常に激しい雨が降り、5日は南西諸島に活発な雨雲がかかった。6日は東海から関東の太平洋側で雨が降った。

■気温

30日から3日は、南西諸島を中心に気温が上昇した。2日から3日は東北で梅雨の晴れ間となり、岩手県釜石で最も気温が高く、32.3℃の真夏日となった。4日になると梅雨前線が南下したため、九州～東海で30℃以上の所が増加し、真夏日の地点数は70地点となった。5日も沖縄や九州南部、四国、近畿で日差しが届き、沖縄県波照間で32.8℃を記録した。6日は、東北や関東の太平洋側は北東からの冷たい空気が流れ込み、梅雨寒となった。



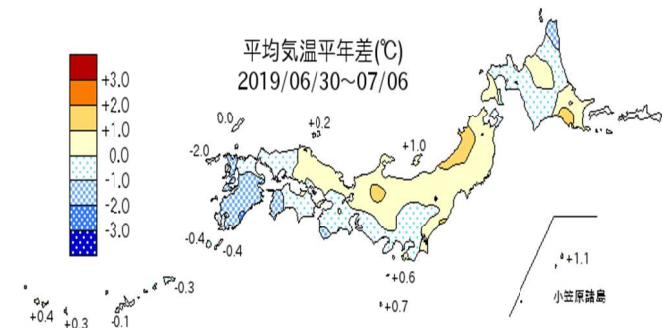
■今期間（6月30日～7月6日）の天候のまとめ

平均気温は、東北や北陸、中国地方など日本海側で、平年並みの所が多かった。一方、関東～九州の太平洋側は、曇りや雨の日が続き、平年より低くなった。

降水量は、梅雨前線が本州の南岸に停滞した影響で、南西諸島や西～東日本の太平洋側で平年より降水量が多く、特に、九州南部や沖縄では平年の5倍以上の降水量となった。一方、西日本の日本海側や北日本では、平年よりも降水量が少なく、広島では平年の10%に満たない少雨傾向だった。

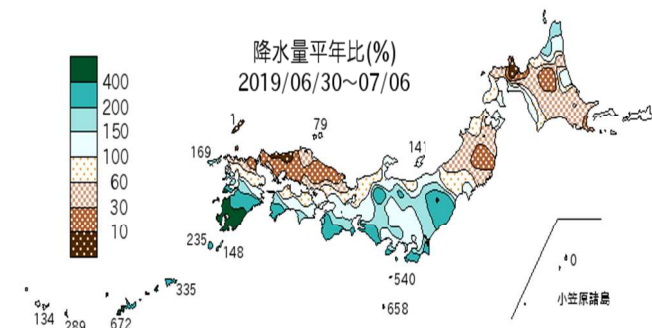
日照時間は、全国的にみると、日照不足の所が多かった。曇りや雨の日が続いた影響で、南西諸島や西～東日本の太平洋側では平年の50%以下の所が多く、特に東京は平年の12%だった。東北は日本海側を中心に晴れた日が多く、日照時間は平年並みか平年を上回る所が多かった。

■平均気温（℃）と平年差（℃）



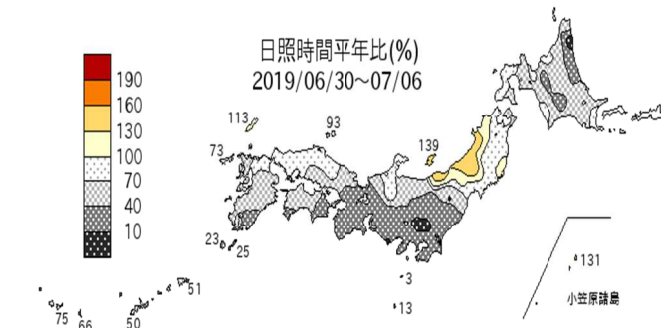
札幌	18.6 (-0.3)	旭川	19.0 (+0.2)
網走	15.4 (+0.1)	釧路	14.8 (+1.1)
室蘭	15.5 (-0.7)	秋田	22.5 (+1.4)
仙台	21.0 (+0.7)	前橋	23.3 (-0.1)
東京	22.7 (-0.6)	長野	22.8 (+0.7)
新潟	23.3 (+1.0)	金沢	24.0 (+0.6)
名古屋	24.7 (-0.1)	大阪	25.0 (-0.6)
松江	23.6 (+0.2)	広島	25.2 (+0.1)
高知	24.6 (-0.6)	福岡	24.4 (-1.0)
長崎	23.2 (-1.9)	宮崎	23.9 (-2.2)
鹿児島	25.5 (-1.2)	那覇	28.5 (-0.2)

■期間総降水量（mm）と平年比（％）



札幌	5.0 (31)	旭川	3.0 (19)
網走	5.0 (38)	釧路	11.5 (44)
室蘭	51.5 (148)	秋田	21.5 (47)
仙台	43.5 (93)	前橋	65.0 (143)
東京	38.0 (84)	長野	79.5 (212)
新潟	66.0 (138)	金沢	51.5 (74)
名古屋	78.0 (135)	大阪	56.0 (101)
松江	27.5 (36)	広島	6.5 (7)
高知	123.0 (143)	福岡	26.0 (29)
長崎	166.0 (160)	宮崎	491.0 (573)
鹿児島	569.5 (583)	那覇	154.5 (610)

■日照時間の平年比（％）



札幌	81	旭川	58	網走	68
釧路	57	室蘭	56	秋田	134
仙台	82	前橋	17	東京	12
長野	44	新潟	135	金沢	103
名古屋	23	大阪	32	松江	75
広島	75	高知	40	福岡	69
長崎	54	宮崎	32	鹿児島	42
那覇	50				